

調査票 ①

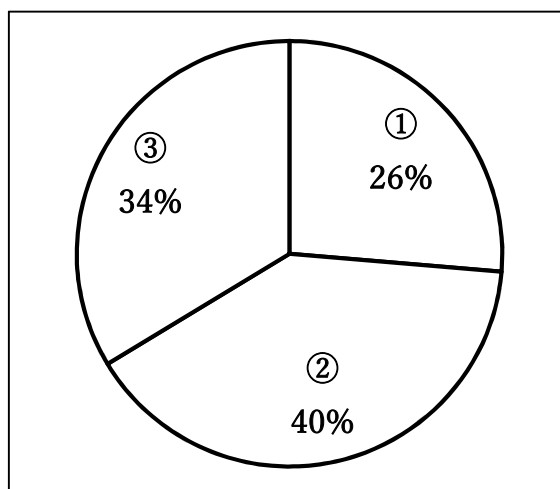
今後(10 年後)の農地利用に関する意向調査結果

(名古屋市内の農業振興地域における農地所有者 2, 012 世帯へのアンケート調査)

実施 : 令和 5 年 12 月 18 日 発送 回答期限: 令和 6 年 1 月 19 日
(再送): 令和 6 年 3 月 28 日 発送 回答期限: 令和 6 年 4 月 12 日
回答(返信): 1,426 世帯(平均回答年齢 70.2 歳) 返信率: 70.8%

問 1 後継者の有無(単一回答)

- ① 後継者がいる(357世帯)
- ② 後継者がいない(542世帯)
- ③ 未定 (457世帯)

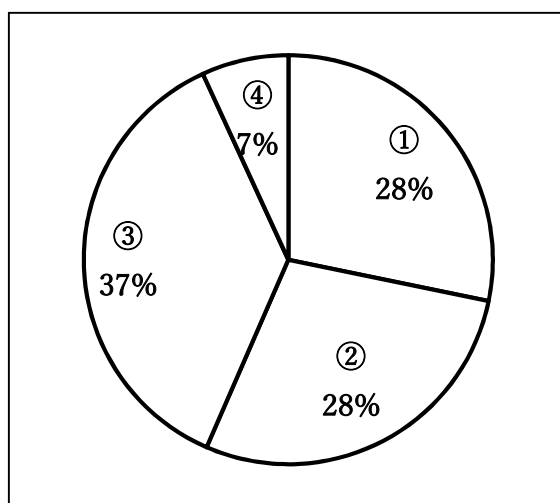


問 2 現在の耕作状況(単一回答)

- ① 所有者(家族を含む)が耕作している (400 世帯)
- ② 料金を支払って、農作業を委託している (400 世帯)
- ③ 農地を貸し出している (517 世帯)
- ④ その他(97 世帯)

・草刈などの管理のみ実施
・親類縁者が耕作
・何もしていない

など



問 3 過去 1 年間に農地で栽培していた農作物(要約)

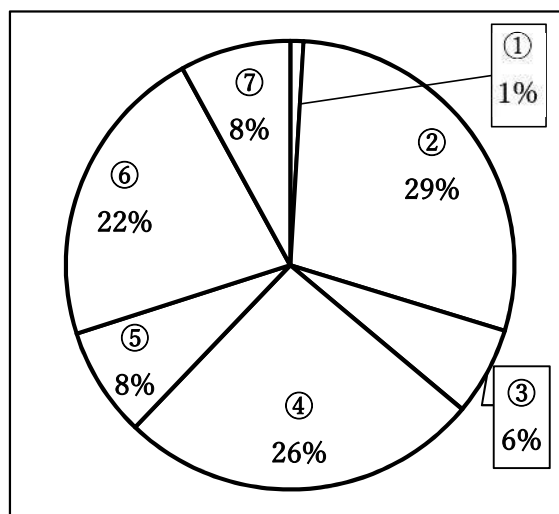
野菜(葉茎菜類、根菜類、果菜類ほか)、穀類(米、麦、トウモロコシほか)、
果樹(ブドウ、ミカン、ウメほか)、花き、苗管理

問 4 今後の農業経営に関する意向(単一回答)

- ① 農地を買う・借りるなどして、耕作面積を増やしたい(13 世帯)
- ② 現状の耕作面積を維持したい(393世帯)
- ③ 既に一部の農地を貸しており、今後に残存の農地を耕作していく(87世帯)
- ④ 農地を売って、耕作面積を減らしたい(356 世帯)
- ⑤ 農地を貸して、耕作面積を減らしたい(108 世帯)
- ⑥ 既にすべての農地を貸しており、今後も耕作を行わない(300 世帯)
- ⑦ その他(110世帯)

・将来のことはわからない
・農地を売却して、耕作しない
・農地を転用したい

など

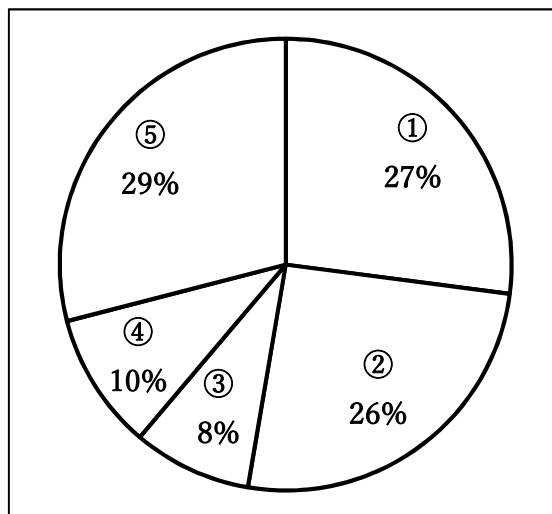


問 5 農業経営を継続・発展させるために取り組みたいこと(複数回答可)

- ① 効率的に作業できるようにするため、農地の場所を集約する(207 世帯)
- ② 化学肥料や化学農薬を使わず、環境負荷をできるだけ低減した有機農業に取り組む(196 世帯)
- ③ 野菜や花き、果樹といった高収益作物へ転換する(65 世帯)
- ④ スマート農業(自動運転トラクターや農業用ドローンなど)を導入する(75 世帯)
- ⑤ その他(222 世帯)

・家庭菜園のため考えていない
・現状を維持していく
・特に考えていない

など

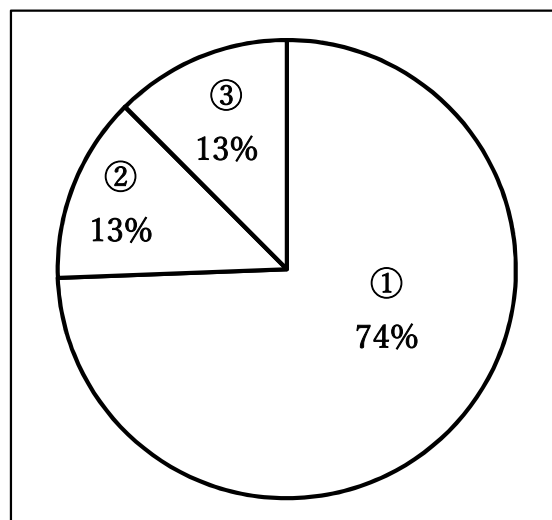


問 6 地域全体で農地の集積・集約化や有機栽培、高収益作物への転換などに取り組む場合の協力(農地の売却、貸付など)の意向(単一回答)

- ① 協力する(666世帯)
- ② 協力しない(117 世帯)
- ③ その他(111 世帯)

・条件、内容次第
・売却はしたいが貸付はしない
・わからない

など



地域農業に関する意識調査結果

(名古屋市内の農業振興地域における農地所有者 2,012 世帯へのアンケート調査)

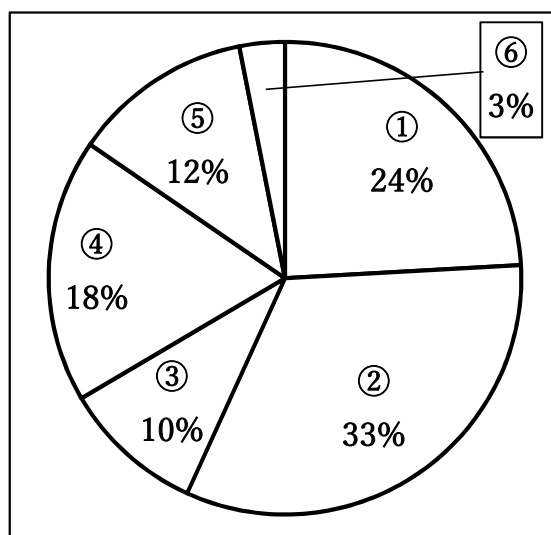
実施：令和 5 年 12 月 18 日発送 回答期限：令和 6 年 1 月 19 日
(再送)：令和 6 年 3 月 28 日発送 回答期限：令和 6 年 4 月 12 日
回答(返信)：1,426 世帯(平均回答年齢 70.2 歳) 返信率：70.8%

問 1 あなたの農地がある地域の農業の課題(複数回答可)

- ① 地域の農業を支える農業者が不足している
(791世帯)
- ② 農家の高齢化が深刻になっている
(1072 世帯)
- ③ 耕作されずに荒れた農地が増加している
(319 世帯)
- ④ 生産にかかる費用(肥料、光熱費、税金など)
の負担が大きい(592 世帯)
- ⑤ 農作物の販売価格が安すぎる(404 世帯)
- ⑥ その他(102 世帯)

・地域農業の将来像が見えない
・農地を貸しても利益がでない
・わからない

など

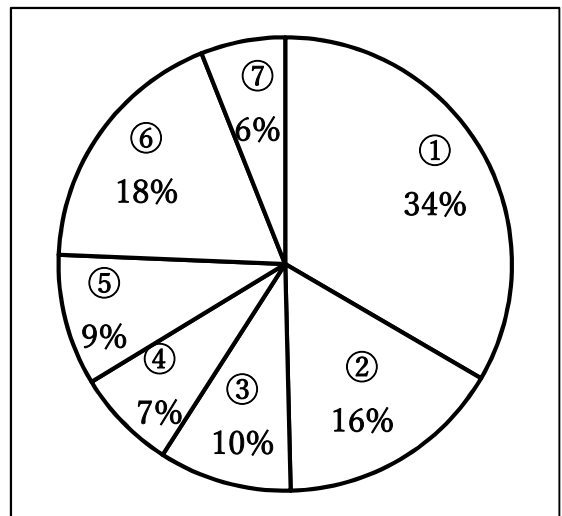


問 2 地域の農業の課題解決のために必要な取組(複数回答可)

- ① 担い手に農地をまとめて貸し付け、効率的に作業できるようにする(793世帯)
- ② 新たな担い手の育成をする(385 世帯)
- ③ 化学肥料や化学農薬を使わず、環境負荷をできるだけ低減した有機農業に取り組む(225 世帯)
- ④ 野菜や花き、果樹といった高収益作物へ転換する(171 世帯)
- ⑤ スマート農業(自動運転トラクターや農業用ドローンなど)を導入する(222 世帯)
- ⑥ 行政による生産にかかる費用の援助(435 世帯)
- ⑦ その他(143 世帯)

・農業収入で自立可能な体制づくり
・行政が農地を買取り集約
・農業振興自体が困難

など

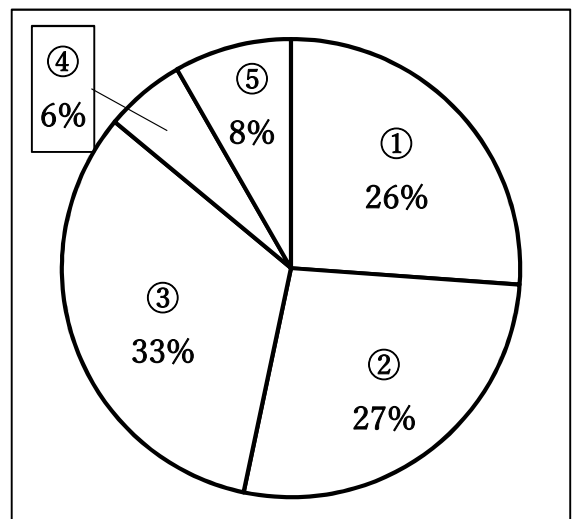


問 3 地域で農地を集積する場合の担い手への集積規模(単一回答)

- ① 地域の農地をすべて、担い手に集積する(350 世帯)
- ② 担い手への集積を基本に、担い手に支障がない範囲で自作を認める(364世帯)
- ③ 所有者が貸し付けを希望する農地を担い手へ集積する(438 世帯)
- ④ 担い手へ集積する必要はない(所有者による耕作を継続する)(76 世帯)
- ⑤ その他(111 世帯)

・集積よりも作業ごとに特定
・個人の圃場に影響がないよう集積
・わからない

など

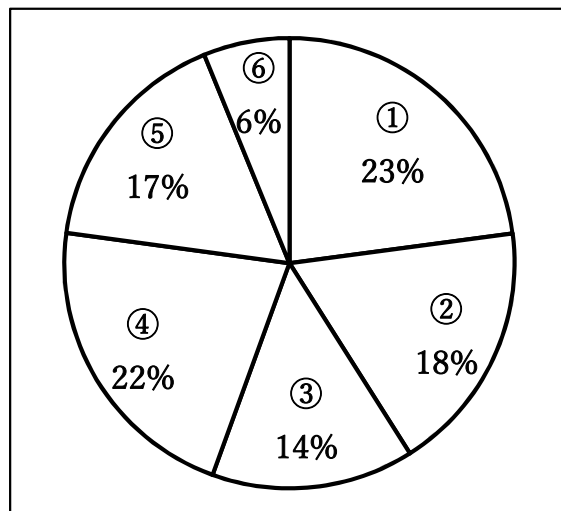


問 4 地域の農業者の確保・育成に重要だと思う取組(複数回答可)

- ① 農業の基本的な知識や技術を学ぶ機会の提供(534 世帯)
- ② 農地のあっせん(423 世帯)
- ③ 就農相談窓口の設置(339世帯)
- ④ 補助金、低金利の融資など資金面の支援(504 世帯)
- ⑤ 生産物を流通させるためのルートやマーケティングの支援(389 世帯)
- ⑥ その他(144 世帯)

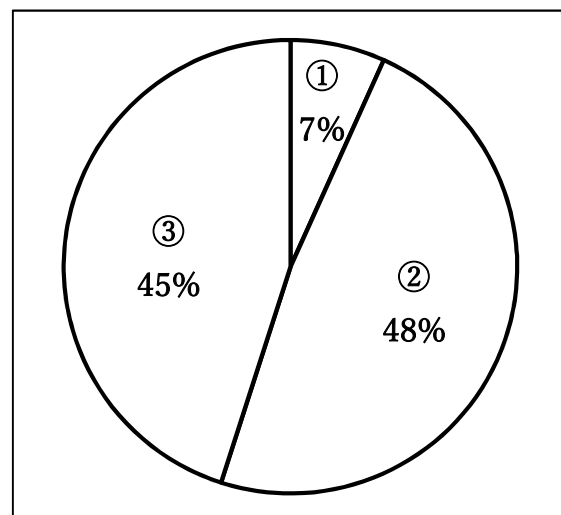
・農業収入で自立可能な体制づくり
・若年層の考えをもっと取り入れる
・わからない

など



問 5 あなたの農地での有機農業の実施状況(単一回答)

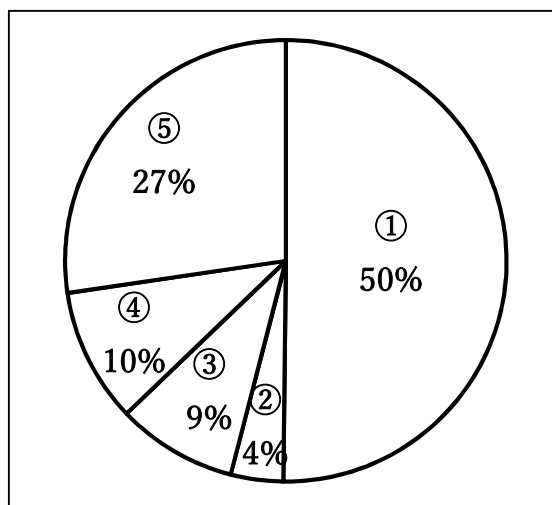
- ① はい(実施している)(86世帯)
- ② いいえ(実施していない)(613 世帯)
- ③ わからない(573世帯)



問 6 有機農業を実施しない理由(単一回答)
(問5で「② いいえ」と回答した者)

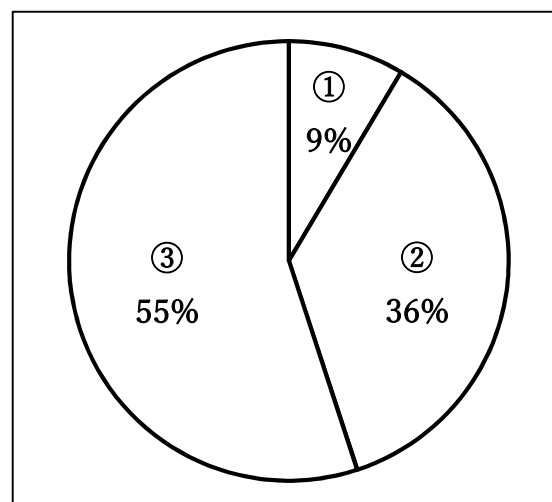
- ① 栽培の手間や経費が増える(393 世帯)
- ② 周辺住民の理解が得られない(30 世帯)
- ③ 作物の適当な販路がない(69 世帯)
- ④ 収穫量が減少するため(77 世帯)
- ⑤ その他(214 世帯)

・そもそも耕作していない
(委託している)
・興味がない
・知識がない など



問 7 今後の有機農業の実施意向(単一回答)
(問5で「② いいえ」又は「③ わからない」と回答した者)

- ① はい(実施したい)(100世帯)
- ② いいえ(実施したくない)(427世帯)
- ③ わからない(645世帯)



問 8 有機農業を実施している上での課題(主な意見を要約)
(問5で「① はい」と回答した者)

・害虫対策	・生産量が不安定	・雑草対策
・販売ルートの開拓	・作業負担増	・行政の努力不足
・補助金が必要	・近隣の耕作者との関係	など

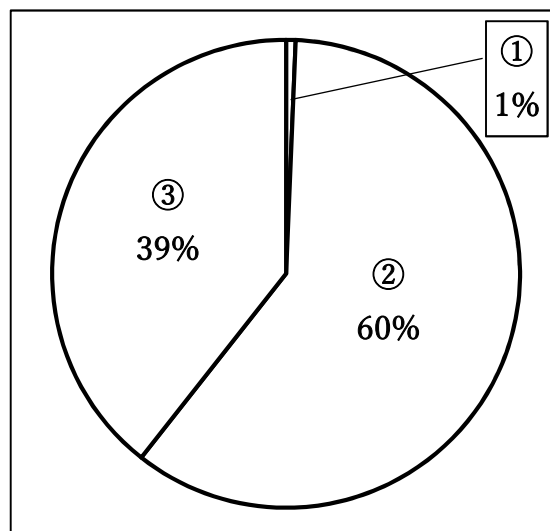
問 9 今後、有機農業を実施する上での必要な支援(主な意見を要約)

(問5又は問7で「① はい」と回答した者)

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| ・知識技術不足の解消 | ・作物価格の安定 | ・高齢化への人的支援 |
| ・販売ルートの開拓 | ・資金(行政の支援) | ・肥料が高価(補助が必要) |
| ・消費者の理解 | など | |

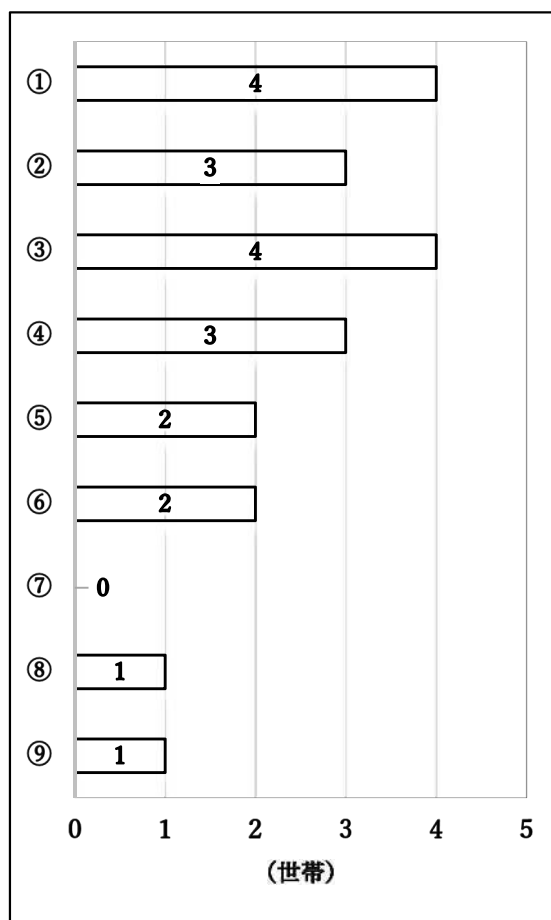
問 10 あなたの農地でのスマート農業の実施状況(単一回答)

- ① はい(実施している)(8 世帯)
② いいえ(実施していない)(734世帯)
③ わからない(482 世帯)



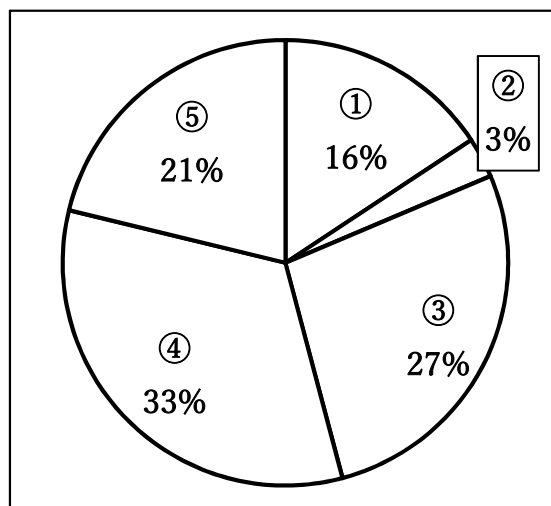
問 11 実施しているスマート農業(複数回答可)
(問 10 で「① はい」と回答した者 8 世帯の内訳)

- ① 自動運転トラクター(4 世帯)
(搭乗による一部自動化または自立走行)
- ② 自動運転田植え機(3 世帯)
(搭乗による一部自動化または自立走行)
- ③ 高性能コンバイン(4 世帯)
(収穫と同時に収量、食味、水分量等を測定)
- ④ 水管理システム(3 世帯)
(圃場の水位、水温等を各種センサーで自動測定)
- ⑤ 農業用ドローン(2 世帯)
(ドローンのカメラで作物の生育状況を観察)
- ⑥ クラウド型営農支援システム(2 世帯)
(営農管理情報をインターネットによって一元管理)
- ⑦ 農業用アシストスーツ(0世帯)
(モーターや人工筋肉等により重量物の持ち上げ
作業等の負担軽減)
- ⑧ 栽培ハウスの環境制御(1世帯)
(ハウス内の環境を最適な状態に保つ)
- ⑨ その他(1世帯)
(・記載なし)



問 12 スマート農業を実施していない理由(複数回答可)
(問 10 で「② いいえ」と回答した者)

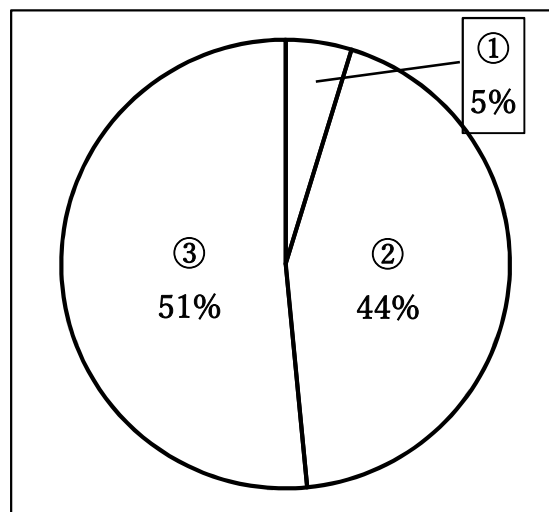
- ① 取り扱いが難しそう(177 世帯)
- ② 周辺住民の理解が得られない(33 世帯)
- ③ 技術の導入や維持管理に経費がかかりすぎる(307 世帯)
- ④ 専門の知識や資格がない(371 世帯)
- ⑤ その他(239 世帯)
(・そもそも耕作していない
(委託している)
・小規模だから
・考えたことがない など)



問 13 今後のスマート農業の実施意向(単一回答)

(問 10 で「② いいえ」又は「③ わからない」と回答した者)

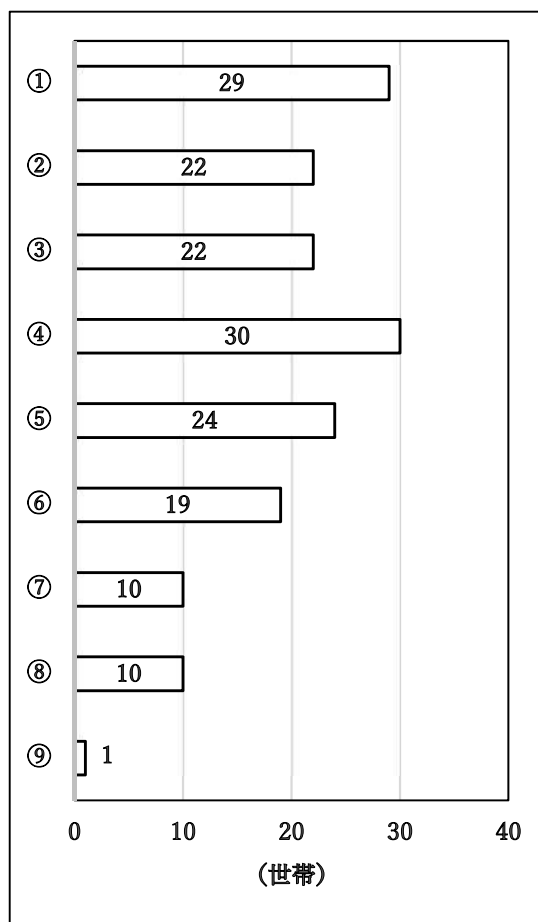
- ① はい(実施したい)(56 世帯)
- ② いいえ(実施したくない)(516 世帯)
- ③ わからない(608 世帯)



問 14 取り組んでみたいスマート農業(複数回答可)

(問 13で「① はい」と回答した者 56 世帯の内訳)

- ① 自動運転トラクター(29 世帯)
(搭乗による一部自動化または自立走行)
- ② 自動運転田植え機(22 世帯)
(搭乗による一部自動化または自立走行)
- ③ 高性能コンバイン(22世帯)
(収穫と同時に収量、食味、水分量等を測定)
- ④ 水管理システム(30 世帯)
(圃場の水位、水温等を各種センサーで自動測定)
- ⑤ 農業用ドローン(24 世帯)
(ドローンのカメラで作物の生育状況を観察)
- ⑥ クラウド型営農支援システム(19 世帯)
(営農管理情報をインターネットによって一元管理)
- ⑦ 農業用アシストスーツ(10 世帯)
(モーターや人工筋肉等により重量物の持ち上げ
作業等の負担軽減)
- ⑧ 栽培ハウスの環境制御(10 世帯)
(ハウス内の環境を最適な状態に保つ)
- ⑨ その他(1世帯)
(・畑全体管理)



問 15 スマート農業を実施している中での課題

(問 10 で「① はい」と答えた者 8 世帯のうち 3 世帯が回答)

- ・田んぼの集積により、さらに効率をあげたい
- ・機械、設備、関連の負担金の増加
- ・気候が読めない

問 16 今後スマート農業を実施する上での必要な支援(主な意見を要約)

(問10又は問13で「① はい」と回答した者)

- ・資金の支援(行政の支援)
- ・SNSでの情報交流の場を創造
- ・技術的支援
- ・機械の貸出や共同で農機具を利用できるシステム構築
- ・行政の不要な介入をなくす など

問 17 名古屋市の農業全般についてのご意見、ご要望(主な意見・要望を要約)

- ・農地としての活用不要
農地売却や転用希望、市街化調整区域や農業振興地域からの除外要望
名古屋市に農地は不要 など
- ・耕作者の高齢化・後継者不足
後継者がいないための悩み、高齢のため農業継続することが困難
若い担い手の確保、新規就農者への支援の拡充 など
- ・収支改善に向けた要望
農地所有者の赤字経営の解消、補助金の拡充、販路拡大、農作業の効率化、
ブランド力強化、小規模農家が農業を継続するための取組み など
- ・農地の管理に関する不満
水回りの管理の困難さ、除草作業や処理の大変さ、困難さ など
- ・アンケートに対する意見
わかりにくい、集計結果を公表すること など